

作り、雨降りの時分、水入ざるよう仕るべし、夫に付、夫婦かけむかいのものにて、馬をも持ことならず、こえため申す儀もならざるものは、庭の内に三尺に式間ほどに堀り候て、其中へはきため又は道の芝草を入れ、せせなぎの水を流入れ、作こえをいたし、耕作へいれ申すべき事
 一百姓は分別もなく、すえの考もなきものに候故、

★かけむかひ（掛け向かい）：両者が向き合うこと、夫婦二人だけの家族

せせなぎ（「せせらぎ」に同じ、小川、溝、どぶ）

分別（ぶんべつ）：物事の道理、明白・確かなこと

秋になり候えば、米雑穀をむざと妻子にも喰せ候、いつも正月二月三月時分の心を持ち、食物を大せつに仕るべく候に付、雑こく専一に候間、麦粟稗菜大根、そのほか何にても雑穀を作り、米を多く喰つぶし候わぬように仕るべく候、まきんのときをぞんじ出し候えば、大豆の

★雑穀（ざつこく）：米麦を除く稗・粟・黍・蕎麦などの穀類の総称

むざと（無差と）：無分別、むやみに、惜しげもなく

まきん（飢饉）：早魃や冷害などで作物が不作となり、犠牲者が出る災害